

令和 7 年 4 月 1 日
昭島市立玉川小学校
校 長 小 瀬 和 彦

I 問題の所在

これからの社会は、Society5.0 を迎え、I of T(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、人工知能(AI)の飛躍的な進化とともに、将来の変化を予測することが困難な時代に直面します。また世界では、温暖化、飢餓、紛争、格差、感染症といった国境を超えた課題が山積しています。

また、第4期教育振興基本計画において、次のような2点のコンセプトが示されました。

第1は、「持続可能な社会の創り手の育成」です。

第2は、「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイング」の向上を図る「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」です。

このような社会的背景及び要請を踏まえ、これからの学校教育には、「日本人としてのアイデンティティをもちながら、異なる言語・文化・価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力、課題に対し協働して問題解決を図っていく能力、共によりよく生きようとする態度をもった人間」の育成が求められます。

上記のような社会的背景・要請及び地域、児童の実態を踏まえ、下記の点から、玉川小学校では、学習指導要領に基づいた教育を展開していきます。

記

学校は失敗するところ！	教室は間違えるところ！
子供の成長を教育活動のど真ん中におく！	
授業は子供が主人公！	誰一人取り残さない！

本校では、昭島市に愛着をもち、関わることを通して、「自らの人生を自らの力で切り拓き、持続可能な社会の創造を担い、ウェルビーイングを向上させる人間の育成」を目指します。

学習指導要領の確実な実施を図るため、全教職員の力を結集し、「チーム玉小（子供の成長を教育活動のど真ん中におく！）」で教育活動の充実を図り、保護者・地域・市民の信頼に応える学校創りを推進します。

II 学校の教育目標

社会に開かれた教育課程の基、カリキュラム・マネジメントの充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を展開するとともに、「チーム玉小」としての組織力・機動力を発揮し、教育目標を具現化していきます。

◎ 精いっぱい学習する子（知）

自ら学び考え・判断し、協働して問題解決を図る子を育てる。

○ 人のためにつくす子（徳）

自分のよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きる子を育てる。

○ すすんで体をきたえる子（意・体）

自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子を育てる。

自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる子を育てる。

これからの社会を生きる玉川小学校の子供たちのために、保護者・地域・市民の皆様方と協働しながら、「チーム玉小」として全力で教育活動を展開してまいります。御理解・御協力のほど、よろしくお願いします。